

河川愛護でヤマメ 3500 匹放流

10月14日、こばやし地区大淀川水系河川愛護対策推進協議会合同河川パトロールがありました。河川愛護の一環で須木中央保育園の園児らが本庄川へヤマメ3500匹を放流。同園の黒木瑛太くんは「元気に大きくなってほしい」と話していました。



今年も大盛況。福祉バザー開催

10月24日、福祉バザーが市民体育館で開催されました。福祉関係14団体が出店し、タオルなどの日用品や野菜などを販売。開場と同時に、館内は買物客の熱気で賑わいました。売り上げの一部は、地域福祉推進活動費や災害義援金などに充てられます。



50年続く東方ソフトバレー大会

東方校区では毎年、体育振興会が主催し、住民が親睦を深めるソフトバレーボール大会を開催しています。10月25日には、第50回の記念大会が行われ、17チーム216人が参加しました。森岡興津男会長は「歴史あるこの大会で、交流を深めてほしい」と話していました。



紅葉彩る県道1号で育樹祭を開催

10月26日、沿道の美化と緑化を目的に、県道1号みどりのトンネル育樹祭が開催されました。事業者や市民ら約170人が参加。参加者は、県道1号の料金所跡から展望台までの約8kmにわたり、樹木の枝打ちや草刈り、ごみ拾いなどを行いました。



4月に小林西高衛生看護科に入学した生徒たちは、戴帽式を経て本格的な実習に入り、准看護師の資格取得を目指します

人間性豊かな看護師目指して 准看護学校で戴帽式開催

11月6日、西諸医師会立小林准看護学校の戴帽式が行われました。晴れて戴帽されたのは1年生26人。教員からナースキャップを与えられた生徒らは、ナイチンゲール像の火で、手に持ったろうそくを灯しました。内村大介校長は「人間性豊かな看護師を目指してほしい」と話していました。



現在は、指導者として活躍する大迫さん。「指導することは、まず選手や子どもの立場になって考えることが大切」と話していました

五輪メダリスト大迫明伸さん 故郷の紙屋中で講演会

11月12日、ソウル五輪柔道銅メダリスト大迫明伸さんが紙屋中で講演会を行いました。同校生徒や小・中学校の保護者、地域住民など約70人が来場。大迫さんは、選手を引退時に湧き出た感謝の気持ちについて話し、「感謝できる人間になってほしい」と生徒らにメッセージを送りました。



音楽や芸術で文化の秋を堪能 第53回小林市総合文化祭開催

10月25日から11月8日にかけて、第53回市総合文化祭が文化会館、中央公民館、市民体育館や野尻町農村環境改善センターなどで開催されました。作品展、芸能祭、音楽祭、囲碁・将棋大会やお茶会などを実施し、参加者は、展示やステージなどで日ごろの活動の成果を披露。地域住民ら延べ約6500人が各会場を訪れ、文化の秋を堪能しました。



1



2

Photo1 講演する北村さん。「今後、必ず女性の待遇は改善される」と話していました。2 マルシェを行う「こばやしママン」(活動の詳細は14頁参照)。3 西諸の女性グループ3団体による活動報告



2

Photo1 百歳会館で開催された囲碁大会。2 絵画、書道、写真や工作など多くの作品が並んだ作品展(市民体育館)。3 多彩な演目が披露された市民音楽祭。

3



3

きたむらはるお 北村晴男弁護士が講演 男女共同参画について考える

10月31日、西諸2市1町主催の「人権啓発・男女共同参画フォーラム」が行われました。市内外から約800人が来場。北村さんの講演会、西諸の女性による活動報告などを通し、男女共同参画について学びました。講演会で、北村さんが自らの職場の女性の雇用形態などを説明。「労働人口が減少している今、女性が働きやすい環境整備が必要不可欠」と話していました。

紙屋小・中で公開授業や研究発表

10月29日、小中一貫教育推進モデル校の紙屋小・中学校で研究発表会が行われました。市内外の教育関係者ら約150人が参加。国語や英語などの公開授業や、同校の教諭やPTAによる研究発表があり、小中一貫教育による学力向上についての理解を深めました。



市内団体代表者ら河野知事と対話

11月4日、知事と県民が対話を行う「知事とのふれあいフォーラム」が小林看護医療専門学校で開催されました。市内27団体の代表者ら28人が参加。医療体制の整備、農畜産の支援や雇用の場の確保など、市の課題について多くの意見が出されました。



後川内区が地域活動備品を整備

後川内区では、8月に南地区体育館敷地内に宝くじの助成金を活用し、コミュニティ活動備品を整備しました。同区の久保信雄区長は、「地域の行事等で積極的に活用し、住民同士の絆を深めていきたい」と話していました。



小中学生の想いが伝わる冊子

市文化連盟では、郷土の文学者黒木清次氏に続く文学者を育むため、小中学生の詩の作品を募集しています。毎年、受賞作品集で冊子を作成しており、今年は黒木清次生誕100周年。冊子は、市立図書館で閲覧できます。



元国会議員の小齊平敏文さん 小林市功労市民を追贈

11月3日、元参議院議員の小齊平敏文さん(享年65)に小林市功労市民が追贈されました。市議会、県議会議員も歴任し、地方自治や国政の発展に寄与した功績を称えたものです。参議院議員在職時には農林水産大臣政務官として大臣を補佐し、日本の農林水産業の振興、発展に尽力されました。

北きりしま田舎物語推進協議会 九州農政局長賞を受賞

11月9日、豊かなむらづくり全国表彰事業(九州ブロック)で北きりしま田舎物語推進協議会が九州農政局長賞を受賞しました。農家民泊をととした交流人口増加や、地域経済への貢献が認められ受賞。富満哲夫会長は「今後も、地域資源を活かして、農業の活性化や地域の発展に貢献していきたい」と話していました。



受賞後の記念撮影。この事業は、地域ぐるみの活動をととして、農林漁業の健全な発展を推進することを目的としています



Photo1 14年間、永田町区長を務めた小峰さん。野尻町との合併時には区長会長として区長会の一本化に尽力。2 真方二区の区長として14年間務めた橋ノ口さん。真方2区営農研修館建設委員長も務め、隣接する多目的広場用地までの確保に奔走し、実現。3 60年余農畜産業の傍ら粉擦業を興した大牟田さん。農業委員を12年務め、農業発展はもとより本市経済振興に寄与。4 郷土史を解説できる第一人者として、市内外での講座などの講師を務める園田さん。小林市文化財保存調査委員として、多年にわたり本市教育文化の振興に尽力。

市がバイオマス産業都市に 県内では初めての認定



前田副市長と伊東良孝農林水産副大臣。伊東副大臣は「エネルギー循環型社会の先導役としてがんばってほしい」と話していました

11月16日、家畜の排せつ物や木材などを活用し、エネルギー循環型社会を目指す「バイオマス産業都市」に市が認定され、農林水産省で認定授与式が行われました。全国から12の自治体選ばれ、県内での認定は市が初めて。今後、バイオマスを活用し地域の雇用創出や活性化を目指します。



長きにわたり地域発展に尽力 3部門4人に市民表彰

11月3日、市の振興発展や市民生活の向上などに尽力した人をたたえる「小林市市民表彰式典」が文化会館でありました。地方自治部門で、小峰實義さんと橋ノ口芳利さん、産業経済部門で大牟田鉄男さん、教育・芸術・体育・文化部門で園田隆さんが受賞。代表して小峰さんが、「身に余る光栄。今後も、小林のために努力していきたい」と謝辞を述べました。

華麗な演技で観客を魅了 市内外13団体が新体操披露

11月14日、市民体育館で新体操演技会が開催されました。全国レベルの華麗な演技を生で見ようと、市内外から約2,200人が来場。選手たちの息の合った団体演技のほか、個人競技のスティック、リング、ロープやクラブを使った技が決まるたびに、大きな拍手と歓声が送られていました。



秀峰高校3年の木牟禮詢さんは「新体操に出会えてよかった。今までの感謝の気持ちをすべて演技に込めました」と話していました